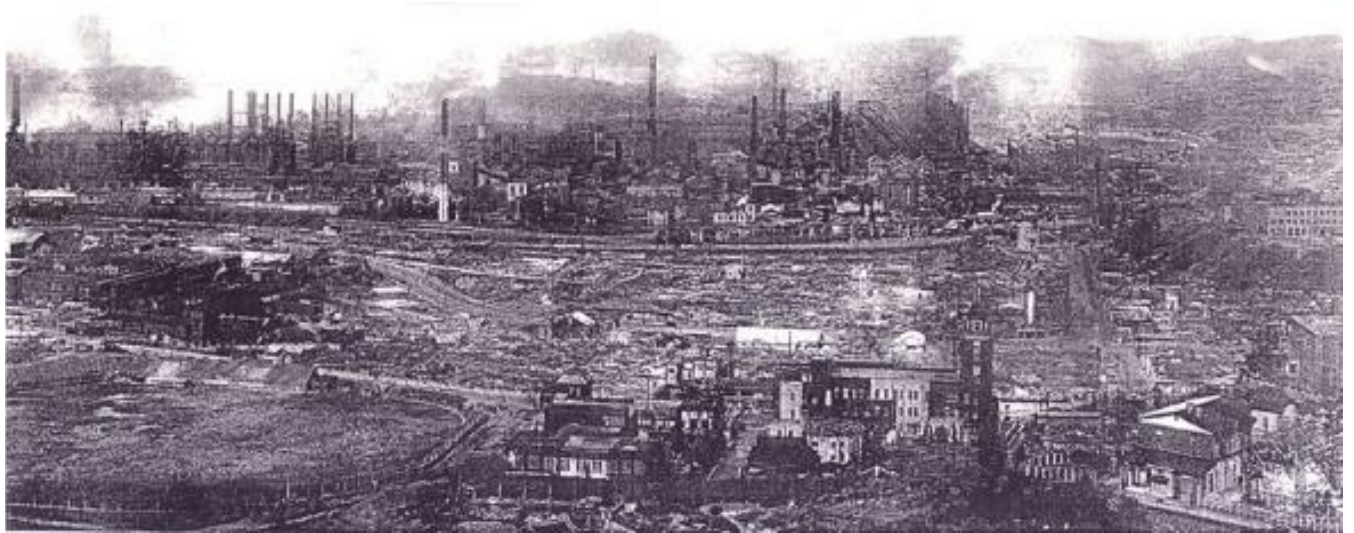


【八幡空襲の概要】

太平洋戦争中、米軍機による八幡への空襲は、のべ20日以上に及んだ。
大規模な空襲は3回で、とくに1945年8月8日の八幡市の被害は甚大なものであった。
枝光北地区では、1944年6月16日の空襲の被害が大きかった。



1944年6月16日の空襲で被災した中央町の様子。左手前に大谷グラウンド、向こうは東田地区の工場。(写真集 福岡の100年)

空襲日時	1944年6月16日 午前1時頃～未明	1944年8月20・21日 20日の夕方と 20日深夜～翌未明の2回	1945年8月8日 午前10時～11時頃
爆撃目標	八幡製鉄所:東田コークス炉	八幡製鉄所:東田コークス炉	八幡市街地
爆撃機数	B29…47機	一次攻撃:B29…61機 二次攻撃:B29…10機	B29…221機 戦闘機…140機
投下された爆弾	500ポンド爆弾(約225キロ) 370発	500ポンド爆弾(約225キロ) 446発	焼夷弾 ^{しょういだん} 20万発以上 (約1181トン)
主な被災地	・枝光北地区 ・桃園町付近	・八幡製鉄所から戸畑に至る 工業地帯や住宅地	・枝光(山王付近)、中央町、 尾倉、前田、平野地区
状況	・B29による日本初の空襲。 ・灯火管制と霧のため、製鉄所にはほとんど被害がなかった。 ・小倉陸軍造兵廠 ^{せうへいしょう} で約80名が死亡するなど、北九州5市で470名以上が死亡。	・日本軍の戦闘機が折尾上空でB29に体当たりして2機を撃墜。 ・日本軍の戦闘機が富坂町(現山王)の民家に墜落し、住民数名が犠牲になる。(山王3丁目東公園に慰霊碑が建つ)	・10時頃にB29の大編隊と援護する戦闘機が八幡に侵入。 ・約1時間にわたって焼夷弾が集中豪雨のように投下された。 ・小伊藤山の防空壕 ^{ぼうくうごう} では300人以上が死亡。
死者 ^{※1}	129人	136人	1,785人
負傷者 ^{※1}	152人	224人	610人
罹災者 ^{※1}	928人	2,680人	53,467人
罹災面積 ^{※2}	2,000坪(66,000㎡) ※サッカー場ほどの広さ	20,000坪 ※6.16空襲の10倍	900,000坪 ※八幡の全戸数の50%以上が罹災

※1 死者・負傷者・罹災者の数値は八幡市のみ。『全国主要都市戦災概況図』(第一復員省編)による。 ※2 罹災面積は『八幡市史』による。

※1944年7月8日未明の空襲により、枝光駅付近で2戸焼失、4戸損壊。死傷者なし。同年8月10日にもB29が八幡に爆弾を投下したが死傷者なし。